

# 実態把握のためのチェックシート

## 【チェックリスト使用に当たっての注意】

- ◆保護者の同意を得ずに実施したチェックリストの結果を、保護者に告げたり、検査や診断に結びつけたりすることは避けましょう。
- ◆チェックリストは児童・生徒の実態を把握するためのものであり、障がいの診断をするためのものではありません。



## 【チェックリストを行う意味は…】

- ◆ 教師が特別な教育的ニーズを持っている児童・生徒の困っている点に気づく眼を持つことができる。
- ◆ 特別な教育的ニーズを持っている児童・生徒の実態を把握することができる。
- ◆ 職員同士、職員と保護者が共に行い、それぞれの場での状況を確認することができる。

学校名： \_\_\_\_\_ 年 組 \_\_\_\_\_ 記入日 \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 月 \_\_\_\_\_ 日  
 氏名 \_\_\_\_\_ 記入者： \_\_\_\_\_ 関係 \_\_\_\_\_

■右側にたくさん○が付く項目は支援が必要だと思われま。		ない	ほとんどない	ときどきある	よくある
<b>◆学習面（聞く、話す、読む、書く、計算する、推論する）</b>					
1 聞く	1 簡単な指示に対して、聞き間違いや聞き漏らしがある。				
	2 ゆっくり話すとう理解できるが、早く話すとう理解困難である。				
	3 相手の話を聞いていないと感じられることがある。				
	4 口頭による指示を覚えてられない。				
2 話す	1 筋道の通った話をするのが難しい。				
	2 適切な速さで話すことが難しい。(たどたどしく話したり、とても早口だったりする)				
	3 話すとき、抑揚が不自然だったり、声の大きさの調節が不適切だったりする。				
	4 語彙が少なく、指示語を多く使用する。				
3 読む	1 初めて出てきた語や、普段あまり使わない語などを読み間違える。				
	2 語句や行を抜かしたり、繰り返して読んだりする。				
	3 促音や拗音などの特殊音節を読み間違える。				
	4 音読が遅い。				
4 書く	1 ひらがな・カタカナ・漢字をなかなか覚えられない。				
	2 字の形や大きさが整わない、独特の筆順で書く等、読みにくい字を書く。				
	3 よく書き間違える。(漢字の細かい部分や「b」と「d」を間違えたりする)				
	4 板書が写せない、または写すのに極端に時間がかかる。				
5 計算する	1 指を使って計算したり、九九が完全ではなかったりする。				
	2 簡単な計算が暗算でできなかつたり、時間がかかつたりする。				
	3 学年相応の文章題の立式が難しい。				
	4 学年相応の量の比較や理解が難しい。				
6 推論する	1 抽象的な概念や、事象の因果関係を理解することが困難である。				
	2 目的に沿って行動を計画し、課題解決に向かうことができない。				
	3 早合点や飛躍した考えをする。				
	4 表やグラフから読みとったり、まとめたりすることが困難である。				
<b>◆行動面（不注意、多動性、衝動性）</b>					
7 不注意	1 細かいところまで注意を払わなかつたり不注意な間違いをししたりする。				
	2 学習や活動などで注意を集中し続けることが難しい。				
	3 面と向かって話しかけられているのに、聞いていないようにみえる。				
	4 忘れ物・なくし物が多い。				
	5 学習や活動を最後までやり遂げることが難しい。				

8 多動	1 授業中や座っているべき時に、席を離れてしまう。				
	2 手足をそわそわ動かしたり、着席している時もしじもじしたりする。				
	3 集会に落ち着いて参加することが難しい。				
	4 じっとしていない。または何かに駆り立てられるように活動する。				
	5 静かにしていることが難しい。常にしゃべる。				
9 衝動性	1 質問が終わらないうちに答えてしまう。				
	2 順番を待つことが難しい、または順序よく並ぶことが苦手である。				
	3 他の人がしていることをさえぎったり、割り込んだり、邪魔したりする。				
	4 カツとなりやすく、衝動的な行動が目立つ。				
	5 目新しいものがあるとすぐに手が出る。				
<b>◆行動面（コミュニケーション、対人関係、こだわり等）</b>					
10 場の理解	1 相手の気持ちを考えられない行動をする。				
	2 人との距離感が適切にとれない。				
	3 静かにすべき時に静かにする等、場に合わせた行動ができない。				
	4 周囲に配慮せず、自分中心の行動をする。				
	5 人から関わられた時の対応が、場に合っていない。				
11 コミュニケーション	1 相手の反応に関係なく、一方的に話す。				
	2 目と目で見つめ合う、身振りなどの多彩な非言語的な行動が困難である。				
	3 冗談やユーモア・嫌みな言葉を理解せず、言葉どおりに受け止めてしまう。				
	4 相手の質問の意図に沿った受け答えをしない。				
	5 場面に関係なく独り言を言ったり、うなり声を出したりする。				
12 対人関係	1 休み時間に一人でいることが多い。				
	2 口げんかやこぜりあいなど、友だちとのトラブルが多い。				
	3 相手の気持ちを推し量ることができない。				
	4 他の生徒からからかわれたり、いじめられたりすることがある。				
	5 自分が非難されたり、非難されていると思い込んだりすると、過剰な反応をする。				
13 感覚過敏	1 偏食がある。				
	2 大きな音・特定の音を嫌がる。				
	3 帽子や靴を履くことを嫌がる。				
	4 特定のにおいを嫌がる。				
	5 ひどく痛がったり、痛みを感じていないように見えたりする。				
14 こだわり	1 急な日程変更や変化があると対応できない。				
	2 あることに強くこだわることによって、簡単な活動も取り組めなくなることがある。				
	3 特定のものに強い執着がある。				
	4 特定の分野に強い興味、関心があり大人顔負けの知識がある。				
	5 一番や正解でないと許せない。				

チェックリストの結果から、**子どもの困難さをどう理解し、どのような配慮が必要か**を考えましょう。



◆「教育支援ハンドブック」(長野県教育委員会)

→ハンドブックP69(HPIは、第2章その7)に必要な支援の観点として、障がい種別に「教育内容・方法」「支援体制」「施設・設備」の例が掲載されています。



◆「合理的配慮実践事例集」(長野県教育委員会)

→第5章「ワンポイント配慮」として、「子どもの観る視点」「つまずきの要因」「合理的配慮」のヒントが掲載されています。

